

えびの市所在

なべくら  
**鍋倉第2遺跡**

西諸（二期）農業水利事業大河平第1ファームポンド工事に伴う発掘調査報告書

2015

宮崎県埋蔵文化財センター

# 序

宮崎県教育委員会では、平成26年度に西諸（二期）農業水利事業 大河平第1ファームボンド工事に伴い、えびの市大字大河平に所在する鍋倉第2遺跡の埋蔵文化財発掘調査を実施しました。本書はその発掘調査の記録を掲載した報告書です。

鍋倉第2遺跡では、アカホヤ火山灰層の下位で縄文時代早期に属する集石遺構や陥し穴状の土坑が検出されており、それらは加久藤盆地の東縁近くでの先人の暮らしを物語る文化遺産として大きな意義を有するものです。本書や出土遺物・記録類が、学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

なお最後になりましたが、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関、地元の方々に心より厚くお礼申し上げます。

平成27年3月

宮崎県埋蔵文化財センター  
所長 岩切 隆志

## 例　言

- 1 本書は西諸（二期）農業水利事業 大河平第1ファームポンド工事に伴い宮崎県教育委員会が実施した、宮崎県えびの市大字大河平に所在する鍋倉第2遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は農林水産省九州農政局西諸農業水利事業所の委託を受け、宮崎県教育委員会が主体となり宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査（現地調査）は平成26年8月25日から10月30日までの41日間実施した。
- 4 現地での実測等の記録は、宮崎県埋蔵文化財センターの山田洋一郎、新谷清、吉本正典が作成した。
- 5 整理作業は山田が担当し、整理作業員の協力を得て宮崎県埋蔵文化財センターで行った。
- 6 空中写真撮影は有限会社スカイサーベイ九州に委託した。
- 7 本書で使用した第1図「鍋倉第2遺跡と周辺の遺跡」は国土地理院発行の5万分の1図『加久藤』（昭和55年2月28日発行）をもとに作成した。
- 8 本書で使用した土層断面及び遺物の色調等は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を参考にした。
- 9 本書中の図面の方位で「M. N.」と記したものは磁北を、「G. N.」と記したものは座標北を示している。標高は海拔絶対高である。また全体図で使用した座標は世界測地系(WGS 84)九州第II系に準拠している。
- 10 本書の編集は山田が行い、執筆は山田と吉本が行った。ただし地質に関わる部分である第I章第3節（1）と第III章第2節（1）は宮崎県埋蔵文化財センターの赤崎広志（日本地質学会会員）による。
- 11 石材の分類は、赤崎広志の監修のもと、山田が行った。
- 12 出土遺物・その他の諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

# 本文目次

## 第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 遺跡の位置と環境	2
(1) 地質について	2
(2) 周辺遺跡について	2

## 第Ⅱ章 調査の成果

第1節 調査区の設定と概要	5
第2節 基本層序	5
第3節 縄文時代早期の遺構と遺物	
(1) 集石遺構と礫の分布状況	9
(2) 1号集石遺構	9
(3) 2号集石遺構	9
(4) 3号集石遺構	9
(5) 1号陥し穴状遺構	9
(6) 2号陥し穴状遺構	9
(7) 出土遺物	9

## 第Ⅲ章 まとめ

第1節 縄文時代早期の遺構と遺物	14
(1) 集石遺構	14
(2) 陥し穴状遺構	14
(3) 出土遺物について	14
第2節 遺跡の性格	
(1) 鍋倉第2遺跡VI層を構成する鉱物粒について	14
(2) 鍋倉第2遺跡の土地利用について	15

# 挿図目次

第1図	鍋倉第2遺跡と周辺の遺跡	3
第2図	遺跡周辺の地形	4
第3図	遺構分布図	6
第4図	土層断面図	7・8
第5図	B-2区集石遺構・散礫出土状況図	10
第6図	1号～3号集石遺構実測図	11
第7図	陥し穴状遺構実測図	12
第8図	出土遺物実測図	13

## 表目次

第1表	基本層序.....	5
	報告書抄録	

## 図版目次

図版1	遺跡全景（北東から）・遺跡全景（東から） .....	16
図版2	遺跡全景（西から）・遺跡全景（上空から） .....	17
図版3	集石遺構・散礫検出状況・1号陥し穴状遺構土層断面.....	18
図版4	散礫検出状況（1）・散礫検出状況（2）・1号集石遺構 ・2号集石遺構・3号集石遺構・1・2号陥し穴状遺構 ・1号陥し穴状遺構・2号陥し穴状遺構.....	19
図版5	出土土器・出土石器.....	20

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

西諸(二期)農業水利事業は、大河平地区の農地への安定的な水の供給を目的とする事業である。このうち大河平第1ファームポンド工事については、平成26年度の開発予定地として平成25年度中に照会があった。その計画地であった当該地は、当初は周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、鍋倉遺跡に隣接することや、なだらかな丘陵地形であったことなどを考慮して、平成26年6月19日に宮崎県文化財課で試掘調査を実施した。その結果、遺物包含層としては希薄ではあったが集石構造が検出され、縄文土器片が出土した。これを受け、平成26年7月8日付けで「周知の埋蔵文化財包蔵地の新規発見」をえびの市に通知した。遺跡についてはえびの市との協議の結果、「鍋倉第2遺跡」と呼称することとした。

その後、九州農政局西諸農業水利事業所と文化財課の間で埋蔵文化財の保護に関する協議を行ったが、工事により影響を受ける部分について発掘調査を実施することとなった。発掘調査に関する「委託契約書」は平成26年8月13日付けで九州農政局西諸農業水利事業所と宮崎県との間で締結された。現地調査は平成26年8月25日～10月30日まで実施することとなり、それに引き続いて同年度中に整理作業から報告書の刊行まで一連の作業を行った。

## 第2節 調査の組織

鍋倉第2遺跡の発掘調査・整理作業及び報告書作成は下記の体制で実施した。いずれも所属・役職名は平成26年度のものである。

調査主体：宮崎県教育委員会

調査機関：宮崎県埋蔵文化財センター

所長	岩切 隆志
副所長	長津 宗重
総務課長（兼）	長津 宗重
総務担当リーダー	副主幹 安藤 忠洋
調査課長	菅付 和樹
調査第二担当リーダー	主 幹 吉本 正典
調査第一担当	主 査 山田洋一郎（調査・報告書担当）
調査第二担当	主 査 新谷 清（調査担当）
[事業調整]	
文化財課埋蔵文化財担当	主 査 二宮 満夫

### 【調査協力】

宮崎県えびの市教育委員会社会教育課

### 第3節 遺跡の位置と環境

#### (1) 地質について

鍋倉第2遺跡は、行政上は宮崎県えびの市大字大河平に含まれる。えびの市は、宮崎県の南西端部に位置し、熊本県と鹿児島県に接する。北は九州山地、南は霧島連山に囲まれた東西方向に長い盆地でその中心部分が含まれる。この盆地は加久藤盆地と呼ばれ、約34万年前の大規模な活動により加久藤火碎流堆積物を噴出した加久藤カルデラの内側に広がっている。その後、度重なる霧島火山群の活動で、カルデラの南縁は崩壊しているが、カルデラ内には約11万年前から「古加久藤湖」が形成されたと考えられている。この湖に周辺の土砂や火山の噴出物が堆積して加久藤層群を形成し、最上部は約2万8千年前の姶良カルデラの活動で流入する入戸火碎流堆積物（シラス）の水中堆積物である。

本遺跡は、加久藤カルデラの東縁部に位置し、基盤は加久藤溶結凝灰岩のカルデラ縁を古加久藤湖に充満した入戸火碎流堆積物があふれ出して部分的に被覆している様相を呈する丘陵地である。この丘陵に最終氷期以降の森林土、火山灰などが堆積して遺跡の土壤を構成している。

#### (2) 周辺遺跡について

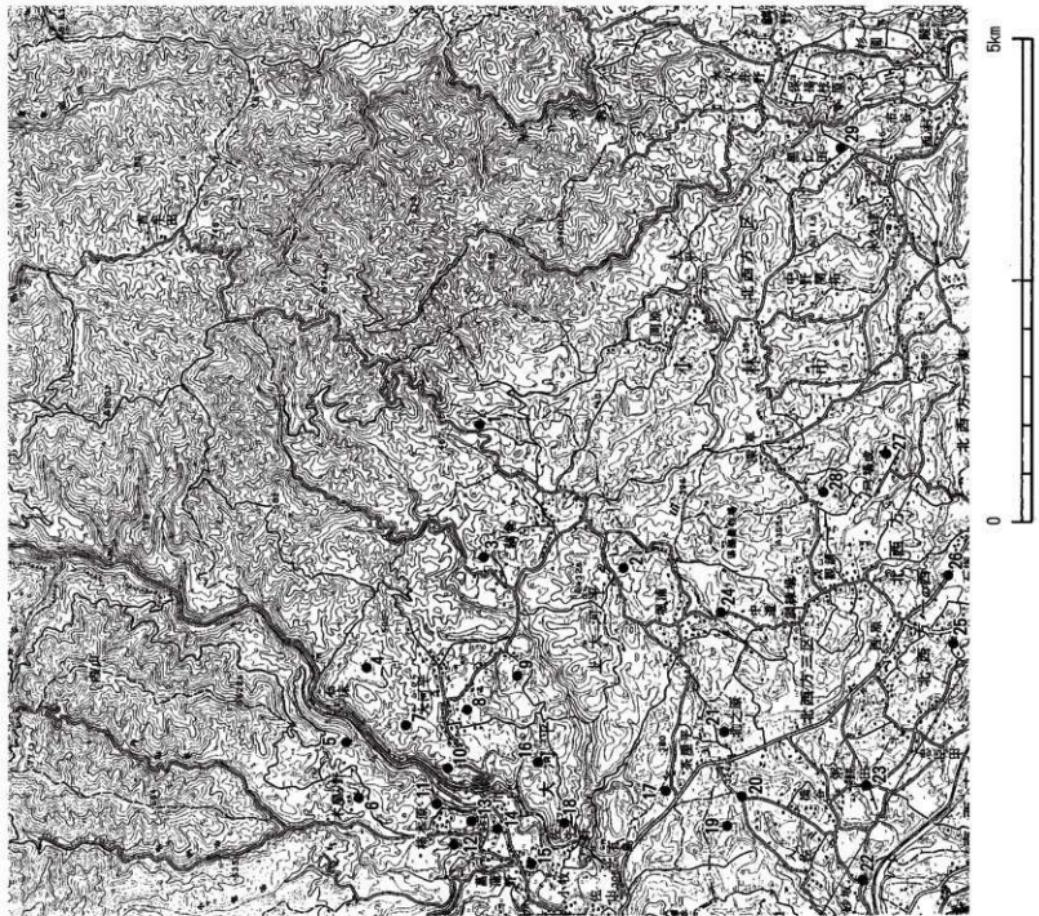
本遺跡の調査成果と関連するえびの市東部・小林市西部の縄文遺跡の中で、発掘調査の結果、時期や性格が明らかとなったものについて簡単に触れておく。

えびの市大字末永の上田代遺跡では縄文時代後期の竪穴建物跡が10軒検出され、阿高式系や南福寺式系・出水式、北久根山式や西平式や突帯文土器など、縄文時代中期末～晚期までの土器が多数出土している。また大字末永の松山遺跡では、直径4m程の円形ないし梢円形の竪穴建物跡が3軒検出されている。土器は縄文時代前期の曾畠式土器や縄文時代後期の西平式土器が出土している。本遺跡の西側に位置する佐牛野遺跡は縄文時代～中世の集落跡であり、縄文時代後期～晚期前半の土坑が検出されている。

小林市側にある大字北西方の黒仁田遺跡は、縄文時代～古墳時代の集落跡で、竪穴建物や土坑などが検出されている。縄文時代の遺物としては、後期の貝殻疑似縄文土器や丸尾式土器、台付皿形土器などが出土している。また、宮崎県埋蔵文化財センターが平成8年度から9年度に発掘調査を行った大字真方の内屋敷遺跡では、鍋倉第2遺跡と同じ縄文時代早期の集石遺構が10基と縄文時代早期・前期の平地住居跡11軒が検出されている。縄文時代早期の土器は、岩本式土器や前平式系土器、知覧式土器、吉田式土器などが認められる。また、大字真方の市谷遺跡群大部遺跡では、晚期の孔列文土器や石鏃などが出土している。

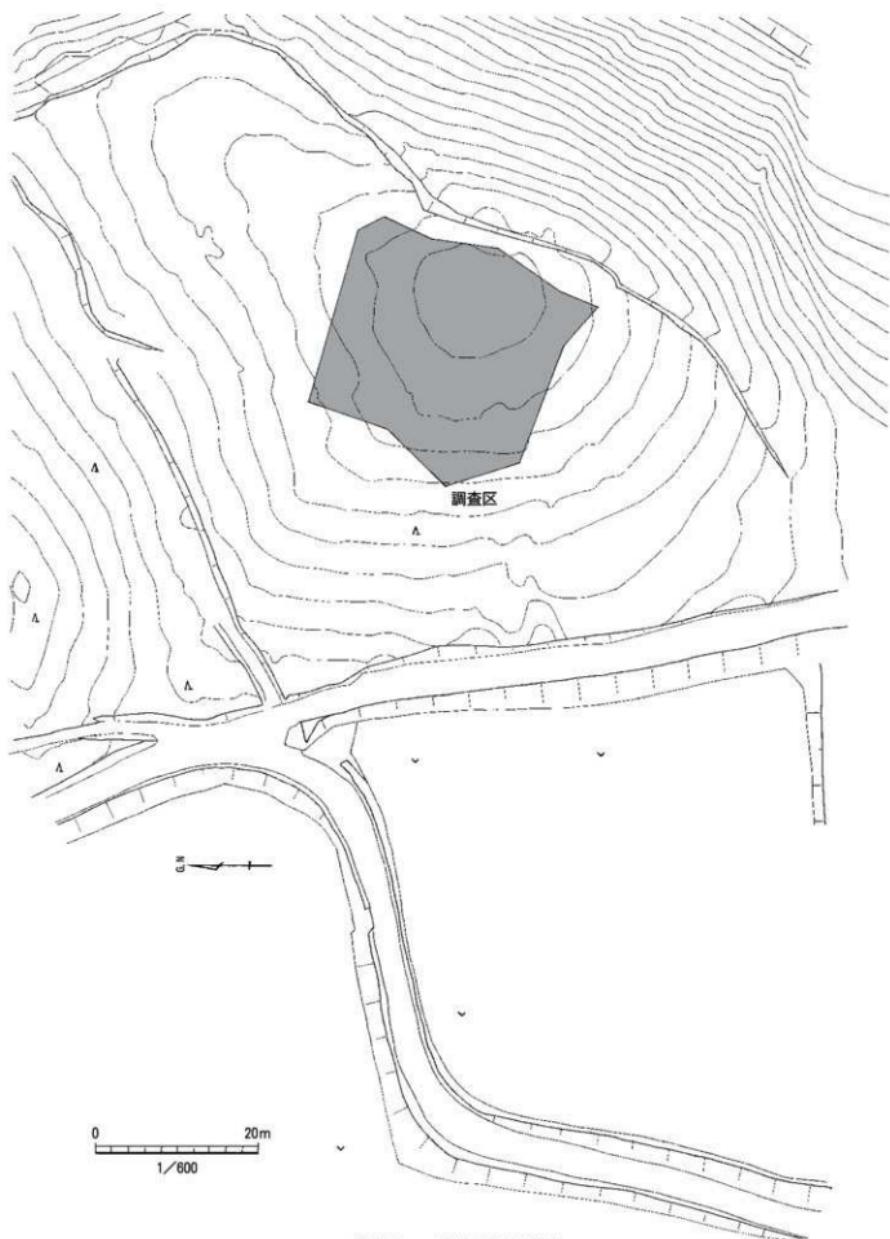
#### 【参考文献】

- えびの市教育委員会1985『えびの市遺跡詳細分布調査報告書』(えびの市埋蔵文化財調査報告書第1集)
- えびの市教育委員会2000『内小野遺跡』(えびの市埋蔵文化財調査報告書第24集)
- えびの市教育委員会2000『佐牛野遺跡』(えびの市埋蔵文化財調査報告書第27集)
- 小林市教育委員会2001『市谷遺跡群』(小林市文化財調査報告書第13集)
- 小林市教育委員会2004『黒仁田遺跡』(小林市文化財調査報告書第18集)
- 宮崎県埋蔵文化財センター1999『内屋敷遺跡』(宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第14集)



- |         |          |        |         |         |         |        |
|---------|----------|--------|---------|---------|---------|--------|
| 1 網倉第2  | 2 鍋倉     | 3 道谷   | 4 平藏ヶ野  | 5 横ノ口第1 | 6 横ノ口第2 | 7 元屋敷  |
| 8 桜野    | 9 中鳥     | 10 下平田 | 11 桧野第2 | 12 仏坂   | 13 柿木原  | 14 川上  |
| 15 菖蒲ヶ野 | 16 椎木平   | 17 茶屋平 | 18 佐牛野  | 19 上入佐  | 20 橋谷   | 21 猫坂  |
| 22 砂坂   | 23 一重原第1 | 24 中道  | 25 下瀬塚  | 26 尾中原  | 27 弓場城  | 28 深草追 |
| 29 黒仁田  |          |        |         |         |         |        |

第1図  
鍋倉第2選路と周辺の道路 (50,000分の1)



第2図 遺跡周辺の地形

## 第Ⅱ章 調査の成果

### 第1節 調査区の設定と概要

今回の調査の対象面積は1,000m<sup>2</sup>である。前述の文化財課による試掘調査の結果を受け、アカホヤ火山灰層下のIV層下部における縄文時代早期該当の層準を中心に調査を進めることとなった。

まず、重機を用いて表土の除去を行ったが、倒木や樹根が想定以上に多く、抜根によって下位層に影響が及ぶ恐れのある箇所は、発掘作業と併行して除去した。その後、人力によって第IV層を掘り下げたところ、調査区中心部に近い平坦地において礫の分布箇所と集石遺構3基が検出された。また平坦地から四方に下る斜面部は、トレッチを入れて必要に応じて拡張することとした。その中で、北側の斜面部において土坑が2基検出された。構築位置や深さ、形状などから判断して、いわゆる陥し穴と想定している。これらを以下「陥し穴状遺構」と記載する。1号陥し穴状遺構の検出層準について次節で触れるが、集石遺構とは時期差があると考えられる。

遺物の出土は少なく土器片2点と剥片が少量みられたのみであった。

### 第2節 基本層序

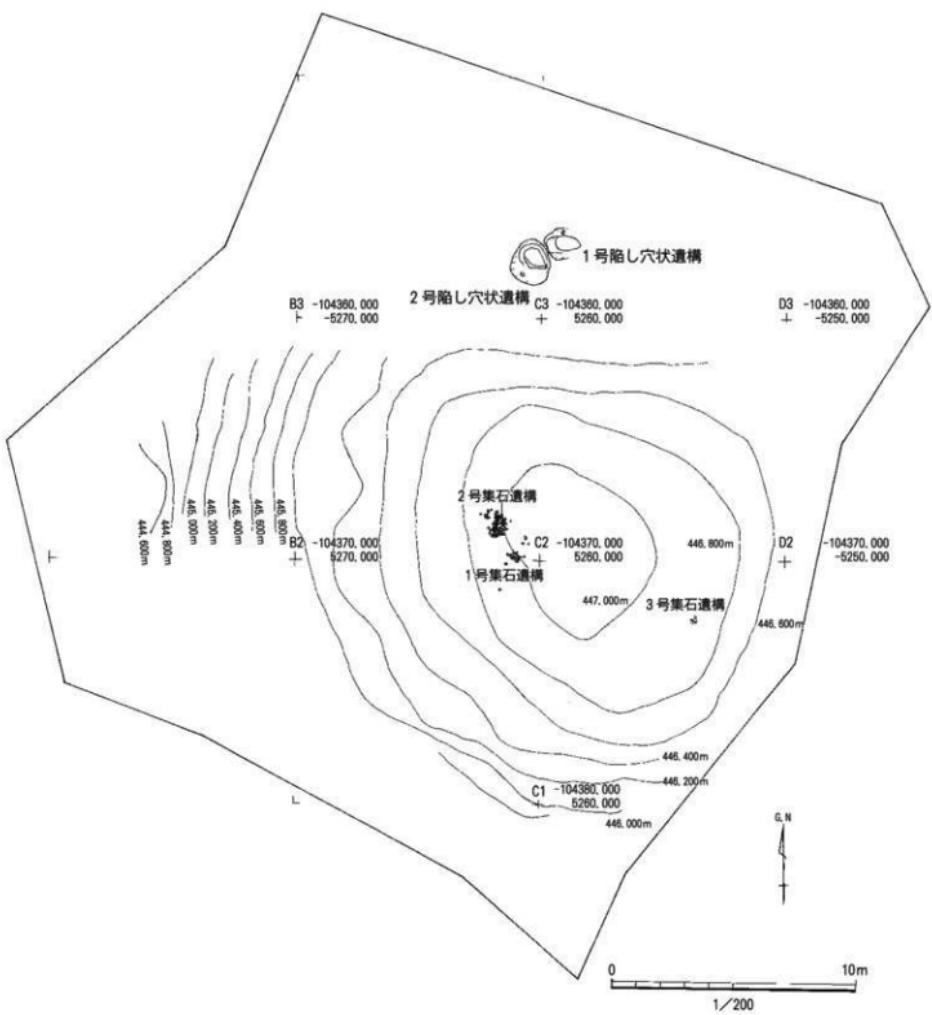
鍋倉第2遺跡における基本層序は以下のとおりである。遺物包含層は第IV層であり、縄文時代早期の層と考えられる。

第1表 基本層序

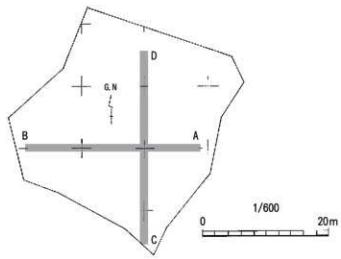
第I層	表土	樹根を多く含む腐植土。
第II層	黒色シルト質土 (Hue10YR, 2/3)	粒が細かく、バサバサしている。
第III層	アカホヤ火山灰 (Hue10YR, 8/8)	腐植化が進み火山灰は褐色のブロックとなる。
第IV層	暗褐色粘質土 (Hue10YR, 3/3)	粒が細かく、締まっている。遺物包含層である。
第V層	黄褐色細礫混粘質土 (Hue10YR, 6/8)	粒がIV層より粗く、細礫が混じる。
第VI層	褐灰色細礫混粘質土 (Hue10YR, 6/1)	粒がV層より粗く、約5cm大の礫が混じる。

鍋倉第2遺跡は、四方に傾斜する独立丘陵状の地形のためか土層の堆積状況が一定でない。集石遺構が構築される丘陵頂部近くの平坦部ではII層・III層がなく、表土の直下はIV層となる。IV層の層厚は10cm程度で、IV層の下部・V層上面で集石遺構が検出されている。

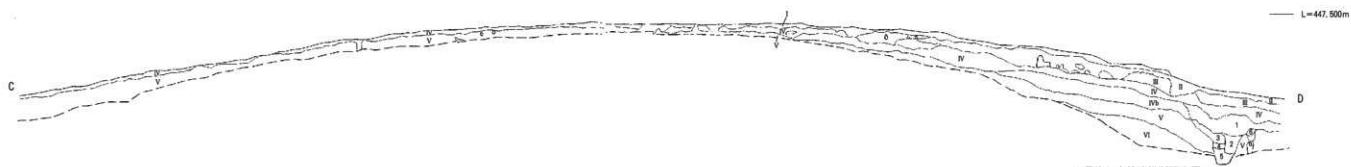
土層断面を観察したところ、東西方向は緩やかに傾斜しており、頂部から約7m西に下がった位置からアカホヤ火山灰層が確認できた。南北方向の土層は、東西方向と同じく傾斜しており、南北向は表土の直下にIV層がみられる。北方向は、頂部から約3m下位で傾斜が急になり、その部分から第III層の堆積が認められる。またIV層が深くなり、場所によってIV層とはやや質の異なるIVb層がIV層の下部に分離される。また、IVb層上位より掘り込まれる形で断面観察によって1号陥し穴状遺構が検出された。全体的に遺構が検出されるのはIV層～V層上面である。IV層より後に堆積したII層とIII層(アカホヤ火山灰／約7,300y. BP)は、谷地形の方向に流失したと考えられる。VI層は厚く堆積しており、遺物等も皆無である。本遺跡で人類の生活の痕跡が確認できるのはV層上面までとなる。



第3図 遺構分布図



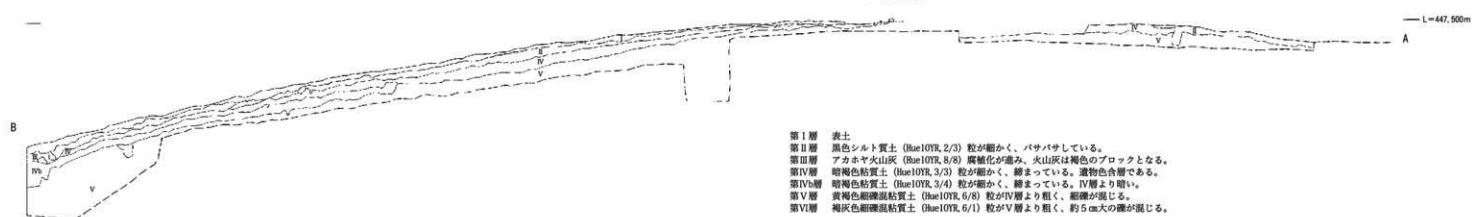
南北土層



1号船し穴状遺構断面土層

- 1 脱灰黄色土 (Hue 2.5Y 4/2) 厚くしまる。
- 2 黄褐色土 (Hue 2.5Y 4/2) 黄褐色のブロックが混入している。
- 3 黄褐色土 (Hue 2.5Y 5/4) やや砂質でカサカサしている。
- 4 黄褐色土 (Hue 2.5Y 5/4) 3よりわずかに粘土が強い。
- 5 オリーブ褐土 (Hue 2.5Y 4/2) 硫化物が混じる。
- 6 黄褐色土 (Hue 2.5Y 5/4) 砂質でサラサラしている。
- 6' 黄褐色土 (Hue 2.5Y 5/4) やや黄色味が強い。

東西土層



- 表土  
第Ⅰ層 黒色シルト質土 (Hue10YR 2/3) 粒が細かく、パサパサしている。  
第Ⅱ層 アカヤ火山灰 (Hue10YR 8/8) 腐植化が進み、火山灰は褐色のブロックとなる。  
第Ⅲ層 暗褐色粘質土 (Hue10YR 3/3) 粒が細かく、練まっている。遺物合層である。  
第Ⅳ層 暗褐色粘質土 (Hue10YR 3/4) 粒が細かく、練まっている。IV層より明い。  
第Ⅴ層 暗褐色細縛混粘質土 (Hue10YR 6/8) 粒がⅣ層より粗く、細縛が強じる。  
第VI層 海灰色細縛混粘質土 (Hue10YR 6/1) 粒がV層より粗く、約5cm大の塊が混じる。

第4図 土層断面図

### 第3節 繩文時代早期の遺構と遺物

#### (1) 集石遺構と礫の分布状況（第5図）

鍋倉第2遺跡は、IV層下部・V層上面で散礫と集石遺構3基が検出された。散礫はB2・C2・B1グリッドの3箇所で確認された。そのうち比較的まとまりのあるB2区の散礫を図化した。角礫が多く、熱変成を受けホルンフェルス化しているものもみられる。

#### (2) 1号集石遺構（第6図）

1号集石遺構はB1区とB2区の境界付近で検出された。丘陵の頂部付近で標高が最も高い地点にあたる。長径0.6m、短径0.4mのやや楕円形状に礫が配置されている。礫の総数は21個で、やや扁平な礫を使用している。明確な掘り込みは検出できなかった。この遺構の西側で無文の縄文土器片が出土している。

#### (3) 2号集石遺構（第6図）

B2区で検出された。1号集石遺構の北西約2m離れた位置にある。長径1.1m、短軸0.6mの楕円形状に礫が広がる。礫の総数は71個でやや角張った礫を使用している。下部にごく浅い掘り込みが認められる。

#### (4) 3号集石遺構（第6図）

C1区で検出された。1号集石遺構の東側約6mに位置している。扁平な礫を4個敷き詰めた状態で検出された。おそらく上部の礫が消失したものと考えられる。

#### (5) 1号陥し穴状遺構（第7図）

調査区北側のほぼ同一の等高線上に、後述の2号と近接する形で検出された。埋土中に遺物が認められなかつたため詳細な時期は判断できないが、第4図で示したようにアカホヤ層より下位のIVb層上位から掘り込まれていることから縄文時代早期以前の遺構であることは確実である。さらに古く旧石器時代まで遡る可能性もあるが暫定的にこの節に含めておく。

1号陥し穴状遺構は、底面近くで長径1.5m、短径1.3mとなり、楕円形の平面プランを呈する。深さは約1.0m。側面に2つの小穴が認められる。その深さは5cm程度である。埋土は底面近くの部分に炭化物の混じるオリーブ色の埋土があり、上位に暗褐色をベースに黄褐色のブロックが入る。埋土の堆積状況から、廃絶後、自然に埋没したものと考えられる。

#### (6) 2号陥し穴状遺構（第7図）

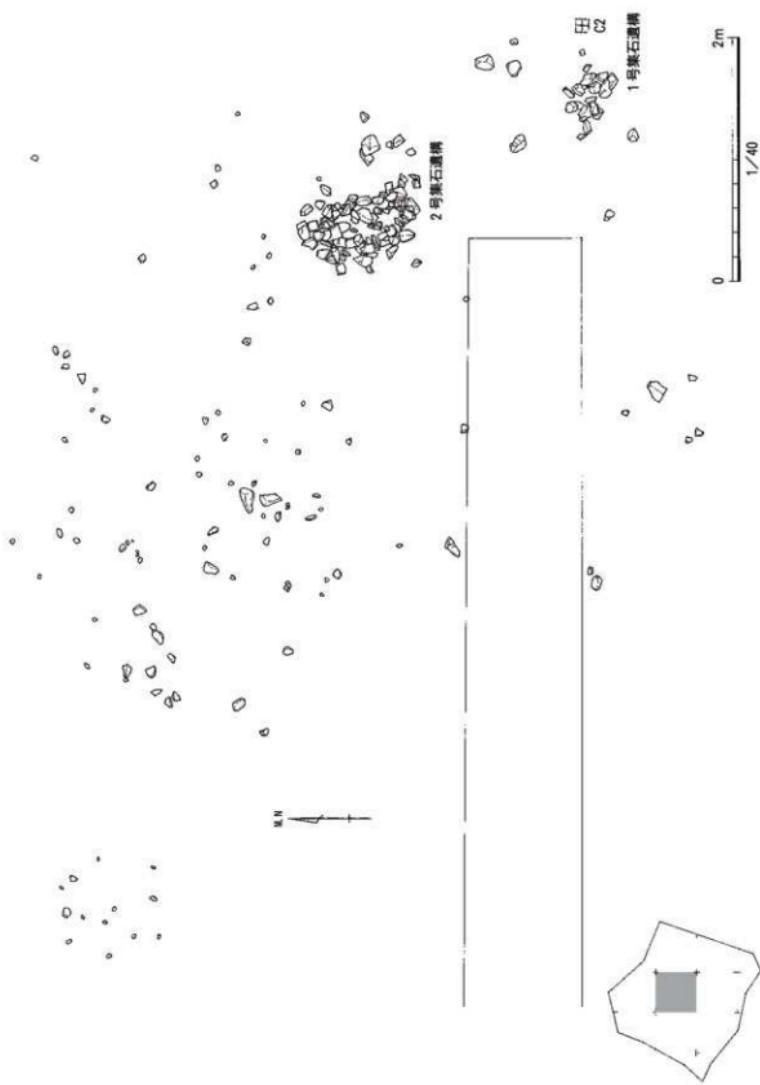
底面で長径0.5m、短径0.3mの規模の楕円形を呈する。検出面からの深さは0.4mである。南方向は段状となっていて底面に向かって落ち込んでいる。

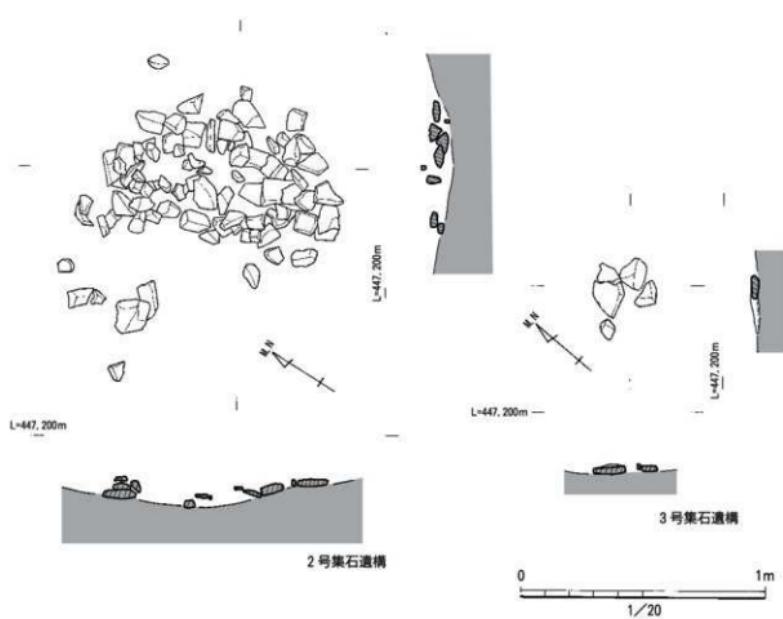
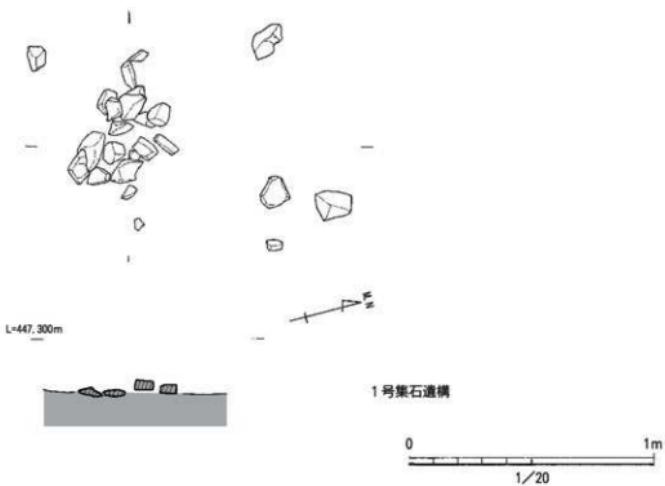
#### (7) 出土遺物（第8図）

1は、胸部の破片である。この土器は1号集石遺構の西側で出土した。器面の風化が著しく判断が難しいが無文の土器であろう。2も胸部の破片である。器面の風化が著しく判断が難しいが、これも無文の土器とみられる。1号集石遺構の南側で出土した。

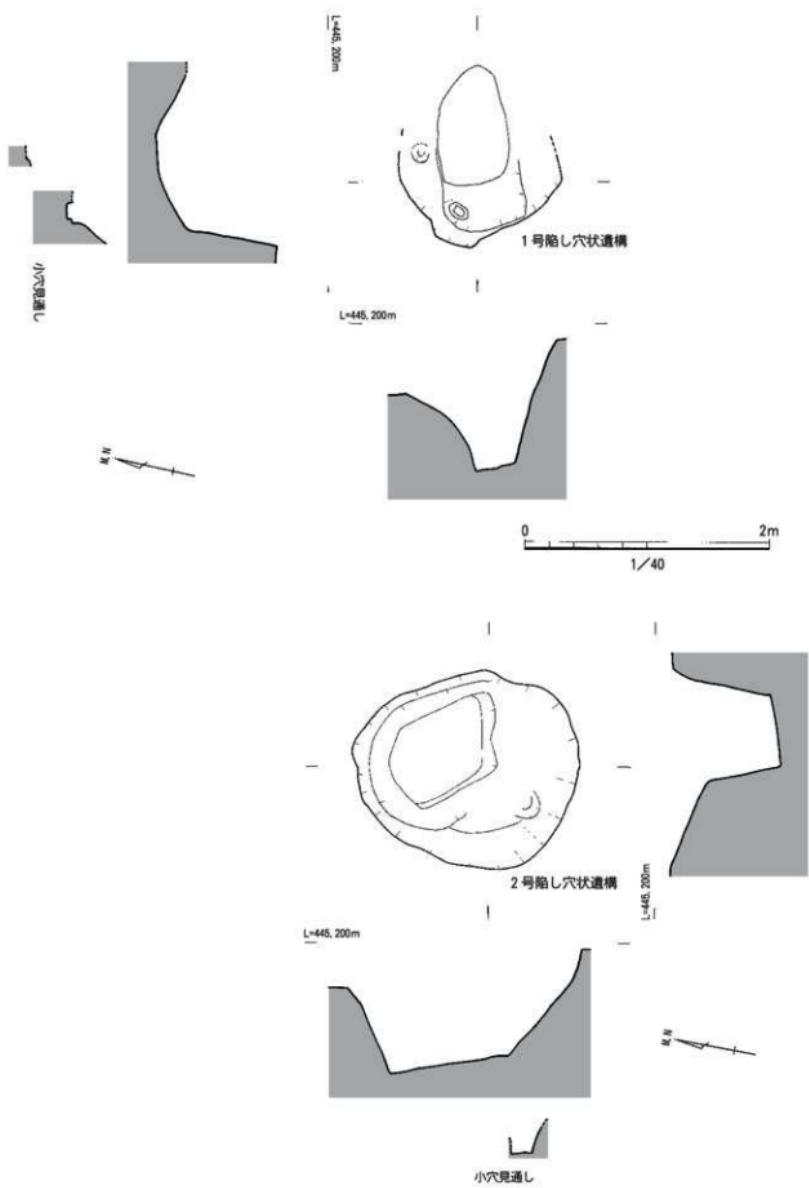
石器は剥片がほとんどであり、製品は出土しなかった。3は姫島産黒曜石製の剥片である。4はガラス質安山岩の縱長剥片である。5もガラス質安山岩製の剥片で1号集石遺構の北側で出土している。6は珪質頁岩製の剥片で1号陥し穴状遺構の検出面近くで出土している。7は砂岩系の剥片で1号集石遺構の中で検出されている。8は砂岩製の台石か。

第5圖 B-2區集石遺構·散擲出土狀況圖

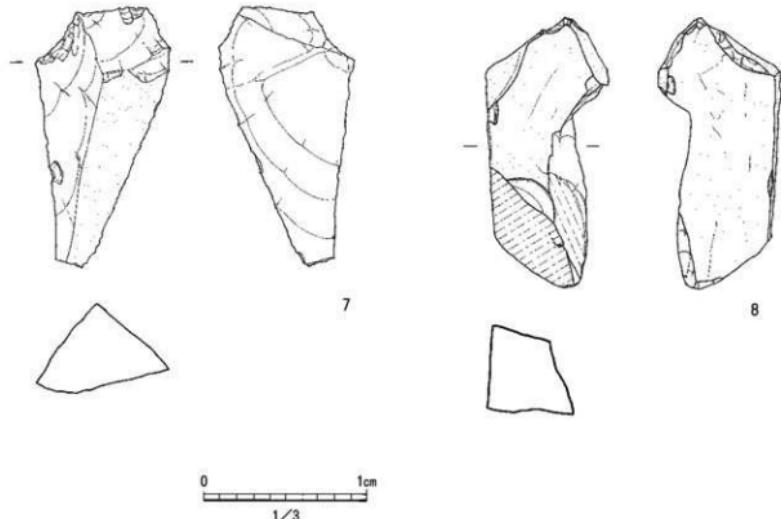
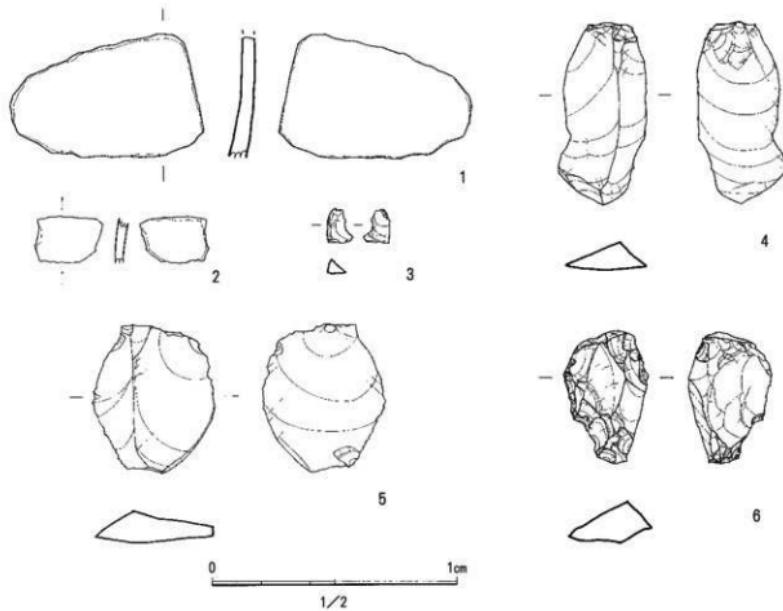




第6図 1号～3号集石遺構実測図



第7図 陷し穴状遺構実測図



第8図 出土遺物実測図

## 第Ⅲ章 まとめ

### 第1節 縄文時代早期の遺構と遺物

今回の鍋倉第2遺跡における発掘調査は、調査範囲としては1,000m<sup>2</sup>の比較的小規模なものであったが、集石遺構と陥し穴状遺構が検出されるなど、地域の歴史を解明する資料が得られた。以下、遺構・遺物の検討を行いまとめしたい。

#### (1) 集石遺構

1号集石遺構については、試掘調査でその存在が確認されていた。掘り込みのある密集した集石遺構ではなく、礫が疎に集積するイメージの旧石器時代の礫群の様相に近いものであった。一方、2号集石遺構は浅い掘り込みを持ち、熱変成を受けた角礫が密集していた。3号集石遺構は上部が流失した底面近くの扁平礫と考えられる。このように様相・性質の異なる3基であるが、いずれも遺構を覆う形でアカホヤ火山灰層の直下にあたるIV層が堆積していること、1号集石遺構の近くで縄文土器片が1点出土したことから判断して、これらの集石遺構は縄文時代早期の所産とみて間違いないと考えられる。

#### (2) 陥し穴状遺構

本遺跡の2基の陥し穴状遺構は、床面に明瞭な杭跡は確認できなかったが、側壁に小穴が認められた。これは陥し穴とした場合、斜面を下る動物には有効なのかも知れない。縄文時代の陥し穴状遺構と認定された福岡県博多区の麦野B遺跡のSK-07でも側壁付近に杭穴のように掘り込まれた小穴が確認できる。なお、えびの市内の陥し穴の類例としては大字上江の北田遺跡の例などが知られているが、縄文時代早期以前に属する例はない。

1号陥し穴状遺構は、埋土の断面観察によれば、IV b層の上部から掘り込まれており、構築時期は集石遺構より若干遅る可能性がある。本遺跡で出土した剥片は旧石器時代の剥離に近いものがあることから、あるいは旧石器時代に属するとも推定されるが出土遺物が皆無であるため確証はない。

#### (3) 出土遺物について

本遺跡で出土した遺物は、縄文土器2点と剥片6点のみであった。面積に比して遺物は希薄といえる。土器については特徴を捉えがたいが、薄手（厚さ約5mm）の無文土器であろう。石器については、製品ではなく、剥片のみが確認された。

### 第2節 遺跡の性格

#### (1) 鍋倉遺跡第2遺跡のVI層を構成する鉱物粒について

VI層の性格を判断するため、ラバーカップに約50ccのVI層土のサンプルを取り、水道水による洗浄を実施した。所見は以下に記すとおりである。

- 1) 数十回の洗浄でも白濁するほどに粘土成分が非常に多く、風化土壤の混入が考えられる。
- 2) 淘汰が悪く、粒径が様々である。角が取れ円磨された安山岩の岩片や霧島火山由来と思われる発泡した溶岩片も含まれている。透明な石英の粒子が散見されるため何らかのテフラが多量に混入していることは考えられる。

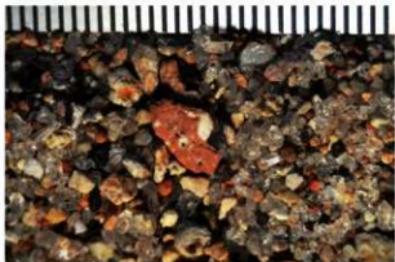
3) 入戸火砕流堆積物（シラス）に特徴的な発泡したパミス（ガラス質の軽石）は少数であり、シラス本体部ではない。

4) 加久藤盆地のローカルな地層群として加久藤層群が知られている。

これは、古加久藤湖に堆積した約11万年前の池牟礼層、約5万年前の岩戸火砕流由来の昌明寺層、静穏な湖底堆積物の溝園層、入戸火砕流の湖底堆積（水中堆積物である）下浦層で構成される。

5) 鍋倉第2遺跡は加久藤盆地の縁辺であり、加久藤層群そのものが堆積しているとは考えにくい。構成粒子を見ると角礫や亜角礫が多く、流水による堆積物だけでもないようである。

サンプルは入戸火砕流由来と思われる火山ガラスと岩戸火砕流由来と考えられる石英粒が混在し、さらに安山岩などの岩片も混在している。古加久藤湖が入戸火砕流によってオーバーフローした時（約3万年前）に下浦層（水中堆積シラス）がカルデラ壁の土壌を巻き込んでカルデラ縁に再堆積したものではないかと考えられる。



視野中央の赤色岩片が円磨された安山岩片

## （2）鍋倉第2遺跡の土地利用について

本遺跡では、丘陵の平坦地に集石遺構が構築され、時期差はあるものの丘陵斜面に陥し穴状遺構が存在する。ただし人間の滞在や逗留を裏付ける前者は、狭小な平坦面のみに分布し、また遺物は希薄と表現できる状況であった。おそらく本遺跡は、縄文時代早期のごく短期間の逗留の跡であり、必要に応じて集石遺構で食料の加工、調理を行うキャンプサイト的な利用をしていたと考えられる。ただし、このような位置付けの当否については、周辺の遺跡も含めた総合的な検討を経て判断せねばならない。

### 【参考文献】

九州縄文研究会・南九州縄文研究会 2004 「九州における縄文時代のおとし穴状遺構」  
『第14回九州縄文研究会鹿児島県国分大会 資料集』

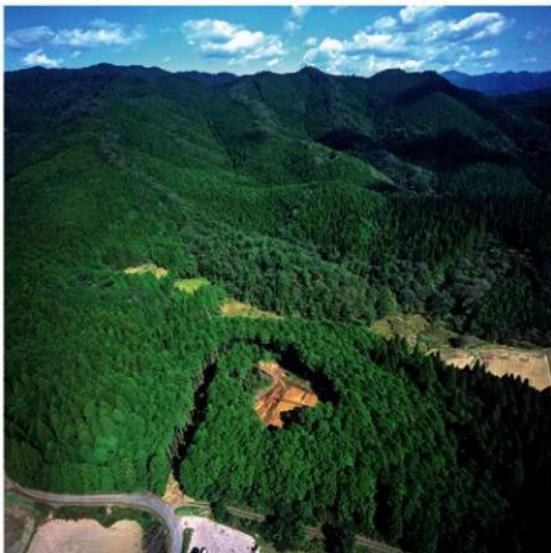


遺跡全景（北東から）



遺跡全景（東から）

図版2



遺跡全景（西から）



遺跡全景（上空から）



集石遺構・散碟検出状況



1号陥し穴状遺構土層断面

図版4



散砾検出状況（1）



散砾検出状況（2）



1号集石遺構



2号集石遺構



3号集石遺構



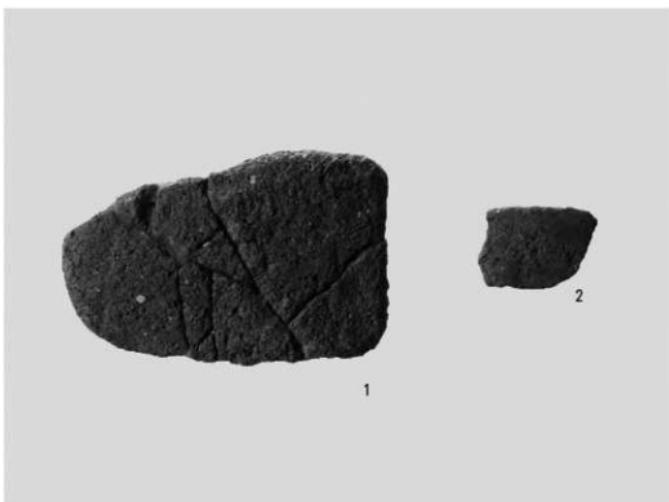
1・2号陥し穴状遺構



1号陥し穴状遺構



2号陥し穴状遺構



出土土器



出土石器

## 報告書抄録

ふりがな	なべくらだいにいせき
書名	鍋倉第2遺跡
副書名	西諸(二期)農業水利事業大河平第1ファームボンド工事に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第234集
編著者名	山田洋一郎・吉本正典
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地 TEL 0985-36-1171
発行年月日	西暦 2015年3月6日

ふりがな 所収遺跡所在	ふりがな 地 市町村	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		遺跡番号						
なべくらだいにいせき 鍋倉第2遺跡	みやざきけん えびの市 おおあらぎ おおこひら 大字大河平	45209	3104	32度 54分 36秒 付近	130度 50分 41秒 付近	2014.08.25 ~ 2014.10.30	1000m <sup>2</sup>	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鍋倉第2遺跡	集落跡	縄文時代 早期 縄文時代 早期以前	集石遺構 陥し穴状遺構	3基 2基	縄文土器 剥片

要約	鍋倉第2遺跡は、独立丘陵状を呈する山林に立地している。頂部付近の平坦地に集石遺構が構築され、遺物が出土している。また北側の斜面には陥し穴状遺構が検出された。陥し穴状遺構は、縄文時代早期以前のものであるが、詳細な時期は不明である。遺物数が少ないとから短期間の逗留の跡であったと考えられる。
----	---

---

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第234集

## 鍋倉第2遺跡

西諸（二期）農業水利事業大河平第1ファームボンド工事に伴う  
発掘調査報告書

2015年3月

発 行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地

TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660

印 刷 株式会社ヒダカ印刷

〒880-0862 宮崎県宮崎市潮見町13-5

TEL 0985(28)4113 FAX 0985(24)8451

---

E B I N O City

N A B E K U R A    2      S i t e

The Excavational Investigation Report of Miyazaki Prefectural Archaeological Center  
vol.234

2015

Miyazaki Prefectural Archaeological Center